

高等学校

平成28年度

教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	3
IV	研究方法	3
V	研究内容	5
VI	研究の成果	21
VII	今後の課題	23

## 研究主題

# 「対話的な学び」を通じて運動に向かう資質・能力を高める 指導と評価の工夫

## I 研究主題設定の理由

中央教育審議会答申（平成20年1月）において、「生きる力とは、変化の激しいこれからの社会を生きるための知・徳・体の『確かな学力』、『豊かな心』、『健やかな体』のバランスのとれた力である」と述べられている。現行の学習指導要領では「生きる力」を育むために発達段階に応じた指導内容の明確化・体系化、指導と評価の一体化が重視されてきた。また、知識や技能の習得、向上に偏らず、学んだ内容を実生活や実社会において生かすことができるよう、「技能」「態度」「知識、思考・判断」のバランスのとれた指導に留意している。

高等学校、科目「体育・保健体育」に関しては、①生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成、②健康の保持増進のための実践力の育成、③体力の向上を通して心身の調和的発達を図ることが目標として示されている。

しかし、これらの資質・能力を身に付けるために必要な学習過程である「習得した知識を活用して課題を解決すること」や「学習したことを言葉や動作等で表現しながら相手に分かりやすく伝えること」などの更なる質的向上が必要であるという指摘がされている。また、積極的に運動をする生徒とそうでない生徒の二極化や、体力の水準が昭和60年頃と比較して低い傾向にあることが課題として挙げられている。特に、「平成27年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査 報告書」<sup>1</sup>（以下、体力運動能力調査という。）では、握力・ハンドボール投げにおいて10年前よりも低下していることが示されており、東京都の高校生は全ての種目において、全国平均値を下回る結果となっている。

これらの現状を踏まえて本研究では、次期学習指導要領改訂の視点として挙げられている「新しい時代に求められる資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等）」を基に、以下の資質・能力の育成が重要であると考えた。

- 1 選択する領域や種目に関する知識や技術を実践的に理解し、運動の技能として発揮したり、身体表現したりする資質や能力
- 2 多様な視点(知る・する・見る・支える)で運動に関わり、運動やスポーツがもつ価値を考え、理解する資質や能力
- 3 思考判断したことを、根拠を示したり他者に配慮したりして、他者に言葉で伝えたり仲間と合意した内容を動作等で表現したりする資質や能力
- 4 体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等を超えて運動の取り組み方を考え工夫できる資質や能力
- 5 運動の合理的、計画的な実践を通して、多様性を尊重し、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲をもち、健康・安全を確保する資質や能力
- 6 生涯にわたるスポーツ場面を想定して、競技会・発表会の企画・運営やルール等の合意形

<sup>1</sup> 平成27年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査 報告書(東京都教育委員会 平成27年11月)

成をしたり、勝敗を超えて協働して楽しむ運動の有用性を認識したりする資質や能力

新しい時代に求められる資質・能力の育成においては、「何を教えるか」という知識の質や量の改善だけではなく、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりが重視されている<sup>2</sup>。課題の発見と解決に向けて主体的・協働的な学習やそのための指導の方法などをさらに充実させる必要がある。したがって、本研究では課題の発見・解決に向けた学習プロセスの一つである、「対話的な学び」を活性化させることを重視した。「対話的な学び」を活性化させることで、主体性・思考力・コミュニケーション能力・達成感・学習意欲が高まり、運動に向かう姿勢も育まれ、結果として体力の向上につながると考える。また、学習指導の改善と学習内容の確実な定着が図れるように、現行の評価規準に加えて新たに「対話的な学び」の評価規準を作成し、検証する。

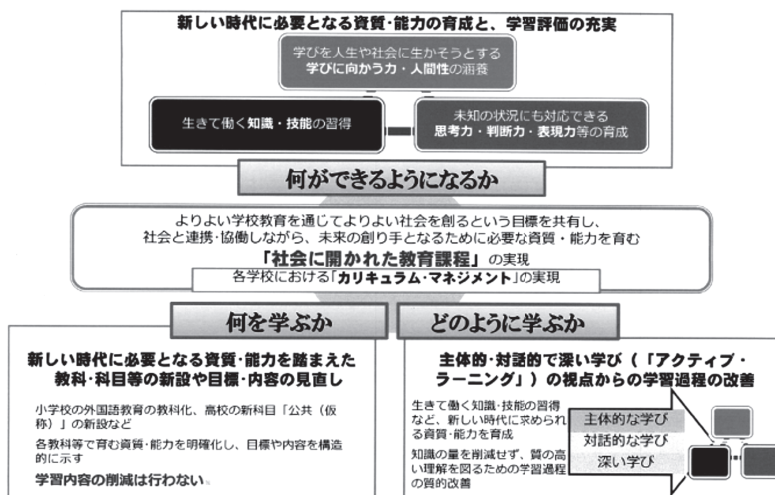
以上のことから、本研究では研究主題を「『対話的な学び』を通じて運動に向かう資質・能力を高める指導と評価の工夫」と設定した。

## II 研究の視点

### 1 「対話的な学び」を発展させる授業

これからの時代に求められる能力として、「社会的・職業的に自立した人間として、広い視野を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること」「対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えとともに、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりを持って多様な人々と協働したりしていくことができること」、「変化の激しい社会の中でも、感性を豊かに働かせながら、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること」<sup>3</sup>が挙げられている。

これらを踏まえた上で、生徒が身に付けた知識や技能を活用し、新しい時代に求められる資質・能力を獲得するためには、「どのように学ぶか」という学習プロセスの充実が特に重要であると考えた。そこで、アクティブ・ラーニングの視点に着目し、学習過程の質的改善を促し、「どのように



※高校教育については、基盤となる学問的知識の暗記から大学入学者選抜で問われることが課題になっており、その対応を研究するほか、生涯学習の取組等を目的とした高1基礎教育等を進める。

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（文部科学省 平成 28 年 8 月）

<sup>2</sup> 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（文部科学省 平成 26 年 11 月 20 日）

<sup>3</sup> 「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（文部科学省 平成 28 年 8 月 26 日 P11）

学ぶか。」を重視した授業を展開する。

アクティブ・ラーニングには、「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」の三つの視点がある。本研究では、主体的・協働的な学習を進める上で中核となる「対話的な学び」に焦点を当てる。「対話的な学び」とは、課題の解決に向けて他者と協働、教え合い、助け合いをすることから生まれる相互作用により資質・能力を育む学びである。よって、運動に向かう資質や能力、年齢や性別及び障害の有無等の違いがある生徒同士が、課題解決のために対話を繰り返すことで深い学びが生まれ、思考力・判断力・表現力等が育まれる。さらに、運動意欲の向上や豊かなスポーツライフの実現にもつながると考えた。

## 2 協働的な学習活動の評価

本研究では、協働的な学習活動を評価するため、個人の評価だけではなく、集団の評価も実施すべきであると考えた。そこで、現行の学習指導要領で示されている評価規準に加え、新たに「対話的な学び」について評価規準を作成する。これらの評価規準を活用することにより、個人、ペアやグループの学習到達度を把握することができ、充実した学習指導を行うことができる。さらに、生徒に具体的な評価規準や目標を作成・提示することで、一人一人が授業における達成目標を明確に設定し、課題解決への意欲が高められると考えた。

## Ⅲ 研究仮説

保健体育の目標を達成するためには、運動を楽しむ心を育て、自己や他者の課題を発見・解決し、達成感を味わうことが重要である。そのためには個の活動だけでなく、仲間と教え合い助け合いながら運動を実践する機会が不可欠である。よって、「課題解決のために仲間とアドバイスや相談などの『対話的な学び』を繰り返すことにより、思考力・判断力・表現力等が向上し、運動に向かう資質や能力が育まれる。」と仮説を立てた。

## Ⅳ 研究方法

### 1 「対話的な学び」を通じて、運動に向かう資質・能力を高める学習

これまでの体育の授業において実践してきたペア学習やグループ学習は、習得した知識を活用して課題を解決することや、学習したことを言葉や動作等で表現しながら相手に分かりやすく伝えることに課題があった。本研究では、これらの課題を解決するために教師の関わり方や話し合いの形式、学習カード等を工夫し、「対話的な学び」を発展させる授業を検証する。具体的には、以下のとおりである。

生徒主体で「対話的な学び」を積極的に取り組むことで、仲間との課題発見・解決に向けた過程の中で、いろいろな考えを共有し、新たな発見から自身の知識・技能の向上につながる。その経験が主体的・協働的な学習に向かう姿勢を養い、社会性や協調性の構築につながると考え、授業内での「対話的な学び」を意図的に発展させる。教師は授業ごとに生徒が話し合うポイントを明確に示すこと、関わり方を明確にすることで、単元が進むにつれ、段階的に教師の指導場面を少なくし、生徒の「対話的な学び」を多くする。

また、「対話的な学び」が活発に行われ、次の学習につながるように学習カードを作成する。学習カードは、練習やトレーニングなどの工夫を記録することに加えて、技能や学習の到達

度、課題の達成状況を仲間と互いに評価し、アドバイスすることに活用できる内容にする。教師は、学習過程の中での変化や成果、気づきに注目して巡回指導を適宜行う。

検証授業は「対話的な学び」の活性化を図るため、ネット型スポーツであるバドミントンとテニスを取り上げた。ネット型スポーツは、限られたスペースを協力して攻防する必要があるため、ペアやグループでの連携・協力・コミュニケーションが必要とされる。そのため、自己の役割を果たし、協力して教え合ったり相談したりしながらチームワークを発揮する「対話的な学び」の場面が多く、社会性や協調性の育成が期待される。また、手具を使用したボール操作を伴う種目のため、体力運動能力調査で低下が著しい握力・投力の向上につながるのではないかと考えた。

## 2 「対話的な学び」に関する評価規準の作成

主体性、思考力、コミュニケーション能力、達成感、学習意欲の視点から「対話的な学び」について評価規準を設定した。また、4観点の評価規準（関心・意欲・態度、思考・判断、運動の技能、知識・理解）と「対話的な学び」の評価規準の関連性について考察した。

## 3 意識調査の実施と検証

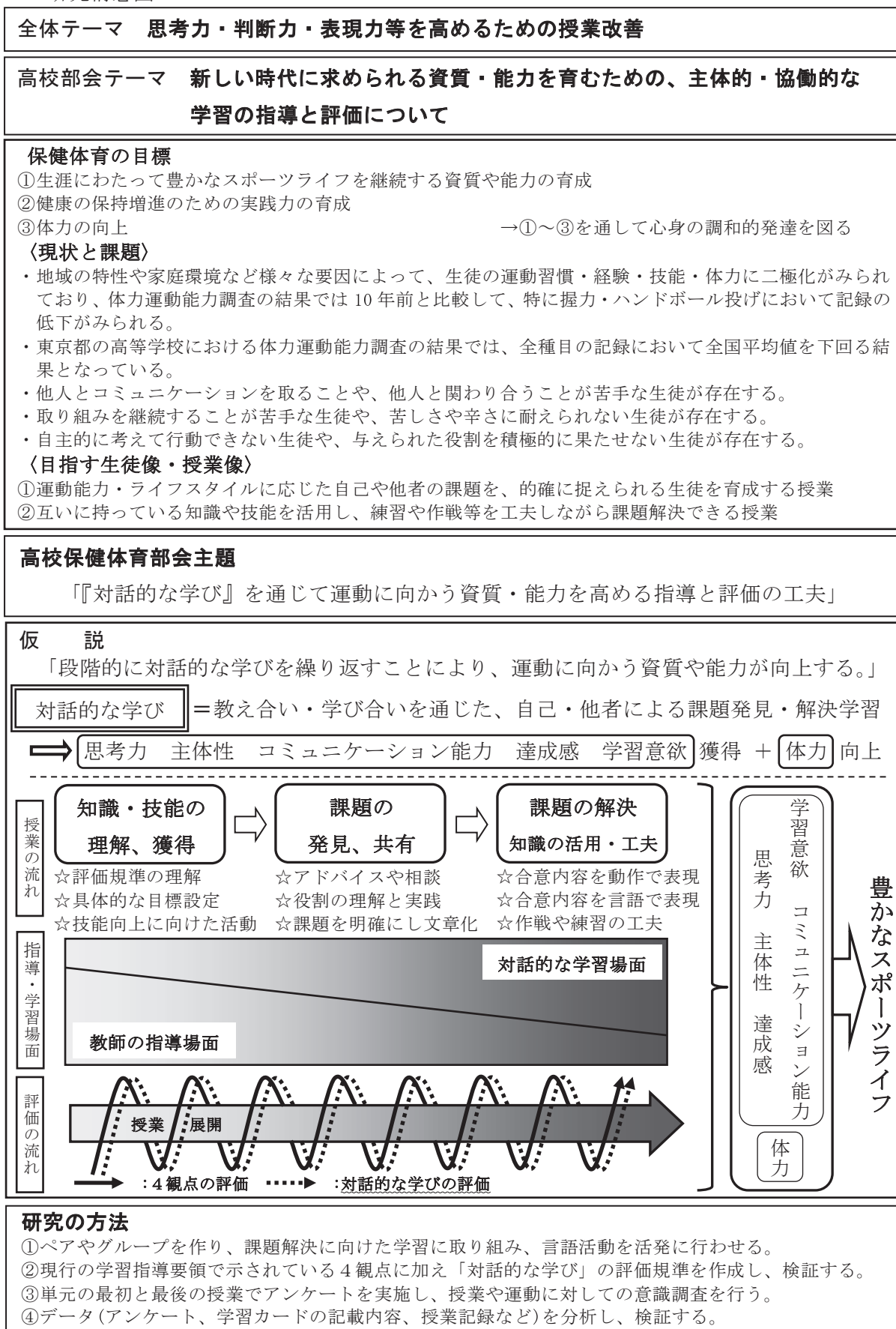
各単元の最初と最後の授業においてアンケート調査を実施する。アンケートの内容は、「①思考力」「②主体性・学習意欲」「③コミュニケーション能力」「④達成感」「⑤体力」「⑥運動習慣・生活習慣」「⑦知識・技能」の7項目である。以下の表1は、本研究が重視した「育てたい資質・能力」について、特に着目したアンケート項目の一覧である。

【表1】

本研究が重視した資質・能力（育てたい資質・能力）	着目したアンケート項目						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
1 選択する領域や種目に関する知識や技術を実践的に理解し、運動の技能として発揮したり、身体表現したりする資質や能力	◎				○		○
2 多様な視点(知る・する・見る・支える)で運動に関わり、運動やスポーツがもつ価値を考え、理解する資質や能力	◎			○		○	
3 思考判断したことを、根拠を示したり他者に配慮したりして、他者に言葉で伝えたり仲間と合意した内容を動作等で表現する資質や能力	◎		○				○
4 体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等を超えて運動の取り組み方を考え工夫できる資質や能力	◎	○			○		
5 運動の合理的、計画的な実践を通して、多様性を尊重し、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲をもち、健康・安全を確保する資質や能力	◎		○			○	
6 生涯にわたるスポーツ場面を想定して、競技会・発表会の企画・運営やルール等の合意形成をしたり、勝敗を超えて協働して楽しむ運動の有用性を認識したりする資質や能力	◎	○		○			

## V 研究内容

### 1 研究構想図



2 検証授業

実践事例1 保健体育1年次

(1) 単元名 領域「球技」ネット型 「バドミントン」

(2) 単元の目標

ア バドミントンについて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。

イ バドミントンを主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。

ウ 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組みを工夫できるようにする。

(3) 単元及び学習活動に即した評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 運動の技能	エ 知識・理解	対話的な学び
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バドミントンの学習に自主的に取り組もうとしている。</li> <li>・フェアなプレイを大切にし、健康・安全を確保している。</li> <li>・作戦などについての話し合いに貢献し、互いに助け合い、教え合おうとしている。</li> <li>・話し合った課題を解決しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアに有効な練習方法を選択したり、相手チームの特徴を踏まえた作戦を選んだりしている。</li> <li>・仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。</li> <li>・健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。</li> <li>・バドミントンを継続的に楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・攻防を展開するための状況に応じた動きやラケットの操作ができています。</li> <li>・味方と連携した動きができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術の名称や行い方について学習した具体例を挙げている。</li> <li>・バドミントンに関連した体力の高め方や課題解決の方法について発言したり書き出したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話を通じて、自己や仲間の課題を見つけようとする。</li> <li>・対話を通じてリーダーシップを発揮し、チームワークを高めている。</li> </ul>
学習活動に即した具体的な評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業のねらいを理解し、自主的に授業に参加している。</li> <li>②ルールを守り、ラケットなどの用具の扱いに留意して安全に活動している。</li> <li>③ペアやチームでの話し合いに積極的に参加し、互いに助け合ったり、教え合ったりしている。</li> <li>④指摘された課題を理解し、解決しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①仲間の課題や相手チームの特徴を分析し、課題を解決するための練習を選択したり、相手チームに合った作戦を選択したりすることができる。</li> <li>②仲間に対して、技術的な課題や練習方法などについてアドバイスしている。</li> <li>③体調に応じて、練習場所や練習内容を選び、安全に活動している。</li> <li>④生涯にわたりバドミントンを楽しむための関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①シャトルの落下点に動き、相手コートの空いた場所に打つことができる。</li> <li>②味方と連携し、空いた場所を埋める動きができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①技術の名称や行い方を理解している。</li> <li>②バドミントンに関連した体力の高め方や課題解決の方法について言ったり書き出したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ペアやグループで対話をしている。 →ア①</li> <li>②ペアやグループで長所や短所を指摘している。 →ア①③ イ②</li> <li>③ペアやグループで助言や応援をしている。 →ア①③④ イ①②</li> <li>④ペアやグループの対話を主導し、課題の発見・解決の工夫ができる。 →ア①②④ イ①② エ②</li> </ul>



(4) 指導と評価の計画（入学年次 8 時間）

時間	1		2		3		4	
	○整列・あいさつ		○準備運動		○用具や場の準備		○健康観察	
0	○オリエンテーション ねらい 学習の仕方、授業の進め方を理解する。 ・アンケート記入		○グループ編成 ○学習カードの記入の仕方を学習する。		○学習カードの記入 ・本時のねらい ・グループの目標		○ダブルスのルールを理解する。	
	○ラケット操作に慣れるための運動 ・シャトルすくい・シャトルキャッチ ・直上シャトル打ち		○基本技能の練習 ねらい ペアでの活動を通じて、各種技能の向上・課題を発見する。		○ペア練習 ダブルスのゲームに向けて、ペアでの練習をする。		○グループ練習 ねらい グループ、ペアの課題解決のための練習を考えて練習を行う。	
	○基本技能の練習 ねらい 基本技能を向上させる。 ・クリアー シャトルの落下地点に移動し、相手コートの後方にクリアーを打つことができる。 ・ドライブ ネットぎりぎりの高さで床と平行のドライブを打つことができる。 ・ヘアピン ネット際から相手のネット際へヘアピンを打つことができる。 ・サービス サービスの打ち方を理解し、相手のサービスコートに打つことができる。		・クリアー ・ドライブ ・ヘアピン ・サービス ・ペアでのラリー ○シングルのルールを理解 ○シングルスゲーム ねらい グループで教え合ってシングルのルールを理解する。 ・相手コートの空いている空間を狙って打つ。 ・グループ内でシングルスゲームを行う。5点ゲームとする。		○ダブルスゲーム ねらい グループで教え合ってダブルスのルールを理解する。 ・ペアと連携して、空いている空間を埋める。 ・グループ内でダブルスゲームを行う。11点ゲームとする。		○ダブルスゲーム ねらい ペアで作戦、戦術をたててゲームを行う。 ・ペアと連携して、空いている空間を埋める。 ・グループ内で総当たり戦を行う。11点ゲームとする。	
	○ペアでのラリー 短時間でペアを変えて、練習した基本技能を使ってラリーをする。		○学習カード記入 ・仲間へのアドバイス・チームの評価					
			○本時のまとめ		○次時の連絡		○整理運動	
10	②ルールを守り、ラケットなどの用具の扱いに留意して安全に活動する。		①授業のねらいを理解し、自主的に授業に参加している。				③ペアやチームでの話し合いに積極的に参加し、互いに助け合ったり、教え合ったりしている。	
	思考判断				②仲間に対して、技術的な課題や練習方法などについてアドバイスしている。			
	技能		①シャトルの落下点に動き、相手コートの空いた場所に打つことができる。		②味方と連携し、空いた場所を埋める動きができる。			
	知識・理解		①技術の名称や行い方を理解している。				②バドミントンに関連した体力の高め方や課題解決の方法について言ったり書き出したりしている。	
	対話的な学び		①ペアやグループで対話をしている。		②ペアやグループで長所や短所を指摘している。			
20	← ② (観察) →		← (観察) →				← ③ (観察) →	
	思考判断				← ② (学習カード) →			
	技能		← ① (観察) →		← ② (観察) →			
	知識・理解		← ① (観察) →				← ② (学習カード) →	
	対話的な学び		← ① (学習カード) →		← ② (学習カード) →			
30	・ラケット操作に慣れるための運動の説明、模範 ・各種技能の説明、模範 ・サーブの説明、模範 ・練習場所の指示 ・ペアチェンジの指示 ・アンケートの記入指示		・基礎練習の指示 ・シングルのルール説明、サービスの説明 ・試合の進め方の説明 ・試合場所、対戦相手の指示 ・学習カードの記入方法の説明		・ダブルスのルール説明 ・試合の進め方の説明 ・試合場所、対戦相手指示 ・ペアの課題発見のための手助け		・ペアの課題発見のための手助け ・課題解決のための練習の提示 ・試合場所、対戦相手指示	
	関心意欲態度							
	思考判断							
	技能							
	知識・理解							
50								

5	6	7	8	時間	学習の流れ	入学年次
				0		
<p>○学習カードの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらい</li> <li>・グループの目標</li> </ul>				10		
<p>○グループ練習</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ねらい グループ、ペアの課題解決のための練習を考えて練習を行う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで課題を解決するための練習を行う。</li> </ul>						
<p>○ダブルスゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で総当たり戦を行う。11点ゲームとする。</li> </ul>	<p>○ダブルスゲーム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで、課題を発見し、解決方法、戦術を考える。</li> <li>・ペアと連携して、相手コートの空いている空間を狙って打つ。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他グループと団体戦を行う。11点ゲームとする。</li> </ul>			20		
<p>○学習カード記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間へのアドバイス</li> <li>・チームの評価</li> </ul> <p style="text-align: center;">○本時のまとめ      ○次時の連絡      ○整理運動</p>				50		
④指摘された課題を理解し、解決しようとしている。				関心 意欲 態度	指導内容	
	③体調に応じて、練習場所や練習内容を選び、安全に活動している。	①仲間の課題や相手チームの特徴を分析し、課題を解決するための練習を選択したり、相手チームに合った作戦を選択したりすることができる。	④生涯にわたりバドミントンを楽しむための関わり方を見付けている。	思考 判断		
				技能		
				知識・ 理解		
③ペアやグループで助言や応援をしている。		④ペアやグループの対話を主導し、課題の発見・解決の工夫ができる。		対話的な 学び	評価の観点・方法	
← ④ (観察) →				関・意・ 態		
	← ③ (観察) →	← ① (学習カード) →	← ④ (観察) →	思考・判 断		
				技能		
				知識・ 理解		
← ③ (学習カード) →		← ④ (学習カード) →		対話的な 学び		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアの課題発見のための手助け</li> <li>・課題解決のための練習の提示</li> <li>・試合場所、対戦相手指示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審判、得点係についての説明</li> <li>・試合の進め方についての説明</li> </ul>			アンケート記入指示	関 教 わ 員 の	

(5) 本時（8時間扱いの2時間目）

ア 本時のねらい

(7) 自主的に授業に参加し、ペアやグループの課題の発見、解決方法を見付ける。

(1) ペアで教え合ってシングルのルールを理解し、練習やゲームを行う。

イ 本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準と方法
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整列、挨拶、出欠及び健康状態の確認</li> <li>・ 本時のねらいや学習内容を理解する。</li> <li>・ 準備運動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の出欠状況、健康状態を確認する。</li> <li>・ 前回の学習の振り返りと本時のねらいと内容を伝える。</li> <li>・ けがの予防のために準備運動をしっかりと行わせる。</li> </ul>	
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の復習 前時で学習したクリアー、ドライブ、ヘアピン、サーブについて確認する。</li> <li>・ 基本技能の学習 (スマッシュ、ドロップ) スマッシュ・ドロップの説明を聞き、ペアでラリーを行う。</li> <li>・ グループで学習カードの記入。チームの目標を考える。</li> <li>・ シングルのルールを理解する。 (コート、サービスのルール)</li> <li>・ シングルスゲーム ペアの1人が試合を行う。試合をしていない生徒はゲームを見て、ペアの課題を発見して、学習カードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホワイトボードを利用し、シャトルの軌道の違いとサーブの打ち方の確認をさせる。</li> <li>・ ホワイトボードに、スマッシュとドロップの軌道を提示し、理解させる。</li> <li>・ 短時間でペアを変えて行わせる。 &lt;努力を要する生徒への手だて&gt; ・ 個別に指導を行う。 ・ 経験者など技能が高い生徒に、アドバイスをしながら行うよう声掛けをする。</li> <li>・ グループで集まって、素早く行わせる。</li> <li>・ ホワイトボードや学習カードを使って説明する。 生徒同士でも理解、確認できるよう学習カードを活用させる。</li> <li>・ グループ内でシングルスゲームを行わせる。</li> <li>・ コートやサーブのルールを守ってゲームができるよう声掛けをする。 &lt;努力を要する生徒への手だて&gt; ・ ペアの課題と良い点を発見できるように、ゲーム中に見えるべきポイントを提示する。</li> </ul>	<p><b>【運動の技能】</b> ①シャトルの落下点に動き、相手コートに打つことができる。 (観察・学習カード)</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b> ①授業のねらいを理解し、自主的に授業に参加している。</p> <p><b>【対話的な学び】</b> ①ペアやグループで対話をしている。 (観察・学習カード)</p>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習カードの記入</li> <li>・ 本時のまとめと次時の連絡</li> <li>・ 挨拶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発見した課題に対する解決方法を記入させる。</li> <li>・ 本時のねらいを再確認し、達成状況を振り返らせる。</li> </ul>	

## ウ 本時の工夫

授業の導入で、前時に学習したクリアー、ドライブ、ヘアピンのシャトルの軌道の違いをホワイトボードに示して確認する。また、本時で新たに学習するスマッシュとドロップに関しても違いをホワイトボードに示し、経験者による模範を見せてポイントを説明する。

このような基本技能の向上と、本時に行うシングルスゲームのルールを理解させるために、3人グループをつくって授業を行う。グループ内のメンバーでお互いに課題や良い点を発見できるようにグループの学習カードと個人の学習カードを活用する。グループの学習カードは、仲間の試合を見て、技術や技能に関してアドバイスを書くスペースをつくった。個人の学習カードは、授業への取り組みや本時のねらいの達成状況を自己評価するとともに、グループの仲間からも評価してもらうようになっている。また、シングルのルールを生徒同士の教え合い・学び合いを通して理解させるために、グループの学習カードにシングルのルールやコート図を入れて生徒同士で確認しながらゲームをできるようにした。

## 【バドミントン 学習カード】

月					日					曜日					限																							
<b>本時のねらい</b> チームで教え合ってシングルのルールを理解して、ゲームを楽しむ！！																																						
<b>チーム目標</b>																																						
①良かった点					②改善点					③次回の目標																												
<b>反省・課題</b>																																						
<b>チーム評価</b>																																						
a		意欲					4 3 2 1					c		知識					4 3 2 1					e					練習の工夫					4 3 2 1				
b		態度					4 3 2 1					d		技能					4 3 2 1					f					話し合い					4 3 2 1				
<b>仲間へのアドバイス</b> シングルの試合を見て、気が付いたことを書きましよう。																																						
氏名					アドバイス																																	
図1 シングルスコート										図2 シングルスサービスエリア ●対角線のサービスエリアに打つ ●ラリーに勝った選手が次のサービスを打つ ●自分の得点が0・2・4・6・8・・・右サイドから 1・3・5・7・9・・・左サイドから																												
<b>試合順</b>																																						
●3人チーム 1ゲーム12点先取										●4人チーム 1ゲーム6点先取																												
①		1 - 2					①		1 - 4																													
②		1 - 3					②		2 - 3																													
③		2 - 3					③		1 - 3																													
							④		4 - 2																													
							⑤		1 - 2																													
							⑥		3 - 4																													

月					日					曜日					限					年					組					氏名				
<b>本時のねらい</b> チームで教え合ってシングルのルールを理解し、ゲームを楽しむ！！																				No. 1														
<b>自分の目標</b>																																		
③ 課題の確認										自分					仲間からの評価																			
1		積極的に授業に取り組んでいたか。															4 3 2 1					4 3 2 1												
2		話し合いなどに積極的に参加したか。															4 3 2 1					4 3 2 1												
3		お互いにアドバイスができたか。															4 3 2 1					4 3 2 1												
4		安定したラケット操作ができたか。															4 3 2 1					4 3 2 1												
5		相手コートの空いている場所に返球できたか。															4 3 2 1					4 3 2 1												
6		緩急や高低などの変化をつけて相手に返球できたか。															4 3 2 1					4 3 2 1												
7		試合方法や審判の方法について理解できたか。															4 3 2 1					4 3 2 1												
④ 課題の解決方法 グループで話し合って課題の解決方法や練習方法を記入しよう																																		
⑤ 本時のねらい、自分の目標達成状況																																		
本時のねらい		できた		4		3		2		1		できなかった																						
自分の目標		できた		4		3		2		1		できなかった																						
⑥ 先生からのアドバイス															サイン																			

実践事例 2 保健体育 2 年次

(1) 単元名 領域「球技」 ネット型 「テニス」

(2) 単元の目標

ア テニスについて、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。また、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開できるようにする。

イ テニスを主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。

ウ 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

(3) 単元及び学習活動に即した評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 運動の技能	エ 知識・理解	対話的な学び
単元の評価規準	テニスの楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に主体的に取り組もうとしている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じたテニスを継続するための取り組み方を工夫している。	テニスの特性や魅力に応じて、ゲームを展開するための作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めて、身に付けている。	技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。	対話を通じて、自己や仲間の課題を見つけようとする。  対話を通じてリーダーシップを発揮し、チームワークを高めている。
学習活動に即した具体的な評価規準	①テニスの学習に主体的に取り組もうとしている。 ②作戦などについての話し合いに参加し、自己の責任を果たそうとしている。 ③互いに助け合い教え合おうとしている。 ④コートやラケット等の用具を安全に管理し、危険なプレイをしないなど、健康・安全に注意しようとしている。	①自己やペア、相手や相手ペアの特徴や踏まえた作戦や戦術を選んでいる。 ②作戦などの話し合いの場面で、合意形成をするための適切な関わり方を見付けている。 ③テニスを継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。	①安定したラケット操作で、ボールをコントロールすることができる。 ②ボールを相手側のコートに守備者がいない空間に緩急や高低をつけて打ち返すことができる。 ③ラリーの中で、相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて攻撃位置や守備位置を変えることができる。	①テニスで握力・敏捷性等の体力を高めることができる場面を言ったり、書き出したりしている。 ②技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ③課題解決の方法について、理解したことや気付いたことを言ったり、書き出したりしている。 ④試合の行い方や運営方法について、学習したことを言ったり、書き出したりしている。	①ペアやグループで対話をしている。 →ア②  ②ペアやグループで長所や短所を指摘している。 →ア②③ イ②  ③ペアやグループで助言や応援をしている。 →ア②③ イ②③  ④ペアやグループの対話を主導し、課題の発見・解決の工夫ができる。 →ア①②③ イ②③ エ③

(4) 指導と評価の計画（2年次8時間）

		時間		1		2		3		4	
2年次	学習の流れ	0	○整列・あいさつ	○準備運動	○用具や場の準備	○健康観察					
		10	○オリエンテーション ねらい 学習の仕方、授業の進め方を理解する。 学習カードの活用法を知る。	○ペア編成 ○学習カードの記入の仕方を学習する。	○ラケット操作の説明 ○ラケット操作に慣れるための運動 ・各種ボールつき(上、下、両面) ・移動しながらボールつき(上、下、両面)	○基本技能の練習 ・ペアで打ち上げパス ・スロー&ボレー	○学習カードの記入 ・本時のねらい・グループの目標	○グループ練習 シングルのゲームに向けて、前時のふりかえり、練習。 ねらい 活動を通じて、各種技能の向上・課題の発見。			
		20	○アンケート記入	○基本技能の練習 ねらい 基本技能の向上 ・フォアハンドストローク ・バックハンドストローク ・サービス ※打ち方を理解し、相手のサービスコートに打つことができる。	○ボレー ○サービスマスの練習	○シングルのルールを理解する。 ねらい グループで教え合っテシングルのルールを理解する。	○シングルの条件付きゲーム ねらい 安定したラケット操作で、ボールをコントロールして打つ。				
		30	○各種運動の説明 ・準備運動 ・コーディネーショントレーニング ・整理運動		ねらい ペアでの活動を通じて、課題の把握、技術向上のための課題解決方法を工夫する。	○シングルの条件付きゲーム ねらい 安定したラケット操作で、ボールをコントロールして打つ。 ・グループ内でゲームを行う。	○学習カード記入 ・仲間へのアドバイス				
		45			○学習カード記入 ・チームの評価						
50		○本時のまとめ	○次時の連絡	○整理運動							
指導内容	関心意欲態度	①テニスの学習に主体的に取り組もうとしている。				④コート整備やラケット等の用具を安全に管理し、危険なプレイをしないなど、健康・安全に注意しようとしている。		②作戦などについての話し合いに参加し、自己の責任を果たそうとしている。			
	思考判断					②作戦などの話し合いの場面で、合意形成をするための適切な関わり方を見付けている。					
	技能			①安定したラケット操作で、ボールをコントロールすることができる。				①安定したラケット操作で、ボールをコントロールすることができる。			
	知識理解	②技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。		①テニスで握力・敏捷性等の体力を高めることができる場面を言ったり、書き出したりしている。							
	対話的な学び			①ペアやグループで対話をしている。		②ペアやグループで長所や短所を指摘している。		②ペアやグループで長所や短所を指摘している。			
評価の観点・方法	関・意・態	← ① (観察) →				← ④ (観察) →		← ② (学習カード) →			
	思考・判断					← ② (観察) →					
	技能			← ① (観察) →				← ① (観察) →			
	知識・理解	← ② (観察) →		← ① (観察) →							
	対話的な学び			← ① (学習カード) →		← ② (学習カード) →		← ② (学習カード) →			
教員の関わり	・各種運動の説明 ・ラケット操作に慣れるための説明 ・練習場所の指示 ・アンケートの記入指示 ・学習カードの記入方法の説明		・ラケット操作に慣れるための運動の説明、模範 ・ペアの指示 ・各種技能の説明、模範 ・練習場所の指示		・各種練習の指示 ・ペア交代の指示 ・ペア課題発見のための手助け ・練習場所の指示		・シングルのルール説明 ・試合の進め方の説明 ・試合場所、対戦相手指示				

5	6	7	8	時間		
○整列・あいさつ	○準備運動	○用具や場の準備	○健康観察	0		
○学習カードの記入 ・本時のねらい・グループの目標						
○グループ練習 ダブルスのゲームに向けて、前時のふりかえり、練習。  ねらい 活動を通じて、各種技能の課題発見。	○グループ練習 ねらい グループ、ペアの課題解決のための練習を考えて練習を行う。  ・各グループで課題を解決するための練習を行う。			10	学習の流れ	2年次
○ダブルスのルールを理解する。  ねらい グループで教え合ってダブルスのルールを理解する。	○ダブルスゲーム ねらい チームで、課題を発見し、解決方法、戦術を考える。 フェアプレイに留意してゲームを展開する。 ペアと連携して、相手コートの空いている空間を狙って打つ。  ・グループで試合を行う。			20		
○ダブルスの条件付きゲーム ねらい ペアで作戦、戦術をたててゲームを行う。 ペアと連携して、空いている空間に緩急をつけて打つ。  ・グループ内でゲームを行う。	○学習カード記入 ・仲間へのアドバイス			30		
○学習カード記入 ・チームの評価				45		
○本時のまとめ      ○次時の連絡      ○整理運動				50		
③互いに助け合い教え合おうとしている。	③互いに助け合い教え合おうとしている。				関心 意欲 態度	指導内容
		①自己やペア、相手や相手ペアの特徴を踏まえた作戦や戦術を選んでいる。	③テニスを継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。		思考 判断	
②ボールを相手側のコートの守備者がいない空間に緩急や高低をつけて打ち返すことができる。	③ラリーの中で、相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて攻撃位置や守備位置を変えることができる。				技能	
		③課題解決の方法について、理解したことや気付いたことを言ったり、書き出ししたりしている。	④試合の行い方や運営方法について、学習したことを言ったり、書き出ししたりしている。		知識 理解	
③ペアやグループで助言や応援をしている。	③ペアやグループで助言や応援をしている。	④ペアやグループの対話を主導し、課題の発見・解決の工夫ができる。	④ペアやグループの対話を主導し、課題の発見・解決の工夫ができる。		対話的な学び	
← ③ (観察・学習カード) →	← ③ (観察) →				関・意・態	評価の観点・方法
		← ① (観察) →	← ③ (学習カード) →		思考・判断	
← ② (学習カード) →	← ③ (学習カード) →				技能	
		← ③ (学習カード) →	← ④ (学習カード) →		知識・理解	
← ③ (観察・学習カード) →	← ③ (観察・学習カード) →	← ④ (観察・学習カード) →	← ④ (観察・学習カード) →		対話的な学び	
・ダブルスのルール説明 ・グループの課題発見のための手助け ・課題解決のための練習の指示	・審判、得点係についての説明 ・アンケート記入指示				教員の関わり	

(5) 本時(8時間扱いの第5時間目)

ア 本時のねらい

(ア) ダブルスのルールを理解し、得点に繋がるようにボールを相手側のコートに打ち返すことができる。(運動の技能)

(イ) 自己やグループメンバーの課題発見や解決方法を考え、グループの話し合い等に責任を持って関わることができる。(関心・意欲・態度)

イ 本時の展開

	学習内容・活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準と方法
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整列・挨拶・出欠確認及び健康状態の確認</li> <li>・準備運動をグループごとにリーダーの号令で行う。</li> <li>・本時の活動内容とねらいを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の出欠状況、健康状態を確認する。</li> <li>・けがの無いように、特に使用する部位(肩周り、股関節周辺)を入念にストレッチさせる。</li> <li>・準備運動に心拍数の上がる運動を一つ入れさせる。</li> <li>・前回の活動内容を振り返りながら、本時の活動内容とねらいを理解させる。</li> <li>・授業のルールを確認し、本時で注意すべき点を理解させる。</li> </ul>	
展開① (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の活動内容の振り返りを行う。</li> <li>・前時の学習カードから出た課題を全体で共有し、各グループで目標を話し合う。</li> <li>⇒ 全体で共通する課題の共有</li> <li>⇒ 各グループの特徴に応じた目標設定</li> <li>・前時の復習(苦手な種類を選択)を行う。</li> <li>2グループに分かれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の活動や学習カードから、全体に共通する課題をあらかじめピックアップし、生徒全体に課題意識をもたせるようにする。</li> <li>・本時の各グループや個人の目標を設定させることで、課題意識を持って活動に取り組みせるようにする。</li> <li>・種類を固定せずに、自らの課題を考えさせながら練習を行わせる。</li> <li>・指導者は努力を要する生徒に適宜指導・助言を行う。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>&lt;努力を要する生徒への手だて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題発見のきっかけとなるヒントを与える。</li> <li>・改善点のみではなく、良い点の指摘もできるようにして、気付いたことを発言、記述しやすくする。</li> </ul> </div>	<p>アー③</p> <p>互いに助け合い教え合おうとしている。</p> <p>(観察、学習カード)</p>
展開② (25分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダブルスのルールを理解する。</li> <li>・グループ別課題解決学習</li> <li>グループに分かれてダブルスの条件付きゲームを行い、各自また各ペア、グループの課題を見付け改善策・戦術について話し合う。</li> <li>詳細は以下の通り</li> <li>・コートの広さはダブルスコート全体。</li> <li>・ローテーションで行い、毎回対戦ペアを変更する。</li> <li>・条件付きゲームに出ていない生徒は、試合に出ている生徒の課題を観察し学習カードにまとめる。</li> <li>・交代した生徒は学習カードを見て自分の課題を把握し、次のゲームで改善できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードや学習カードを使って説明する。生徒同士でも理解、確認できるよう学習カードを活用させる。</li> <li>・チーム内で積極的にコミュニケーションを取りながら活動が行われるように声掛けを行う。</li> <li>・課題を発見しやすいように、授業のねらいを常に確認させるように声掛けを行う。</li> <li>・サービスのルールやコートの広さには注意をして、実際のルールを意識させる。</li> <li>・条件付きゲームに出ていない生徒がいないように注意して各コートを巡回する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>&lt;努力を要する生徒への手だて(話し合い)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験者のリーダー中心にお互いでアドバイスをしあうように指導する。</li> </ul> </div>	<p>アー③</p> <p>互いに助け合い教え合おうとしている。</p> <p>(観察、学習カード)</p> <p>ウー②</p> <p>ボールを相手側のコートの守備者がいない空間に緩急や高低をつけて打ち返すことができる。</p> <p>(観察)</p> <p>対話的な学び③</p> <p>ペアやグループで助言や応援をしている。</p> <p>(観察・学習カード)</p>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで整理運動を行う。</li> <li>・学習カードへの記入を行う。</li> <li>・全体で本時のまとめを行う。</li> <li>・次時の確認、連絡</li> <li>・挨拶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各グループで主に使用した部位の運動・ストレッチを行わせる。</li> <li>○グループごとに本時の反省や次時への課題などを話し合わせ、学習カードにまとめさせる。</li> <li>○本時のねらいを再確認し、生徒の発言、学習カードから達成度を把握する。</li> <li>○次時の内容を確認し、今後の授業への展望を持たせる。</li> <li>○生徒の健康状態を把握し、挨拶を行う。</li> </ul>	



ウ 本時の工夫

テニス部やテニス経験者を分けることで、各グループの技能が均等になるようグループ分けをする。その中で生徒間のアドバイスや準備・片付け・審判などの作業を通して、グループにおける自己の役割を自覚させる。そして、与えられた役割に対してその責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにするためグループ学習の形態をとる。

本時は、「ボールを相手側のコートの守備者がいない空間に緩急や高低をつけて打ち返すことができる。」ことをねらいとするため、基礎的なストロークや基本となる戦術の習得・理解を行い、様々な戦術の中から、生徒が自己やペアの特徴に応じて選択し実行できるように指導した。特に、学習カードを積極的に活用し、前時や授業内で生じた課題を各自や各ペア、チームで理解させ、話し合いやアドバイスを通して課題を解決し、次の活動でそれらを生かせるよう場を設定し、教員による声掛けを行った。

【テニス 学習カード】

<b>＜学習カード（個人）＞</b>		No.	
月 日 限 年 組 番氏名			
①	本時のねらい		
②	自分の目標		
③ 課題の確認 ※該当しない項目は記入しないこと ※○番号は本時のポイントです。必ず記入すること！			
		自分	仲間からの評価
①	積極的に授業に取り組んでいたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
2	フェアなプレイを心掛けていたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
③	話し合いなどに積極的に参加したか。	4 3 2 1	4 3 2 1
4	自分の役割をしっかりと果たせたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
⑤	お互いにアドバイスができたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
6	安全に気を付けて活動できたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
7	自分や相手の特徴に応じて作戦や戦術を選べたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
8	相手の意見や考えを尊重しながら、話し合いができたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
9	自分に適した関わり方を考えながら活動できたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
⑩	安定したラケット操作でボールをコントロールできたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
⑪	相手コートの空いている場所に返球できたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
⑫	緩急や高低などの変化をつけて相手に返球できたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
13	ペアと協力して攻撃や守備ができたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
14	扶の名前や練習方法を言いながら相手にアドバイスできたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
15	活動の中で握力や敏捷性などの体力を高めようと工夫したか。	4 3 2 1	4 3 2 1
16	課題解決に向けて気づいたことをペアやグループに伝えたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
⑰	試合方法や審判の方法について理解できたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
18	ペアやグループで積極的に話し合いができたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
⑱	ペアやグループでアドバイスや応援を積極的に行えたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
20	ペアやグループで話し合い、課題の発見、解決の工夫ができたか。	4 3 2 1	4 3 2 1
④ 課題の解決方法 ペアまたはグループで話し合っ課題の解決方法や練習方法を記入しよう			
⑤ 本時のねらい、自分の目標達成状況			
	本時のねらい	できた	できなかった
	自分の目標	できた	できなかった
⑥ 先生からのアドバイス			
			サイン

<b>＜学習カード（グループ）＞</b>			
月	日	曜日	限
本時のねらい			
チーム目標			
①良かった点		②改善点	
③次回の目標			
反省・課題			
時間	活動・練習内容	活動・練習内容の説明	活動・練習設定の理由
10			
20			
30			
40			
50			
チーム目標	a 意欲 4 3 2 1	e 知識 4 3 2 1	f 練習の工夫 4 3 2 1
	b 態度 4 3 2 1	d 技能 4 3 2 1	f 話し合い 4 3 2 1
<b>＜ペアへのアドバイス＞</b>			
ペア	氏名	アドバイス	
ペア A			
ペア B			
ペア C			
ペア D			
ペア E			
ペア F			

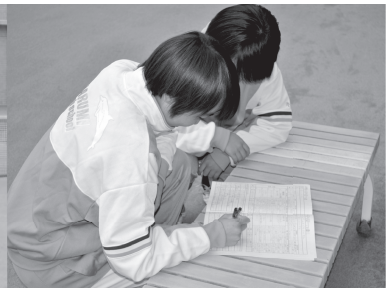
【話し合い】



【練習（テニス）】



【学習カードの記録】



検証授業を通して、以下に成果を三点、課題を二点記述する。

成果1 教師主導ではなく、授業が進むにつれて生徒の中のリーダーが中心となり授業が展開されたことである。グループ内でリーダー、用具係、学習カード係などの役割を決めて、それぞれが責任を持って役割をこなしていた。特に、リーダーの生徒は積極的に活動に参加し、授業が進んでいくとチームの実態を把握して練習計画を立てられるまでになった。そのため、教師の指導、助言は、授業が進むにつれて少なくなり、生徒による教え合い、学び合いの場になっていった。

成果2 グループ学習が思考力の向上や仲間づくりにつながったことである。グループ学習を行うことにより、グループ全体で楽しんだり、レベルアップしようとする姿勢が生まれた。具体的には、グループで勝つための作戦、戦術を考えたり、ペアの組み方や練習方法を工夫する様子が見られた。また、今まで話をしたことがない人とペアを組み、アドバイスをし合ったりする場面も見られ、生徒同士の交流につながった。

成果3 生徒が主体性を持って授業に参加するようになったことである。学習カードを活用することによって、授業のねらい、グループの目標、個人の目標が明確になり、練習や試合で積極的にアドバイスをし合う場面が見られた。話し合いの場面においても、良かった点、課題や課題の解決方法など、グループ内の対話が活発に行われ、練習や試合の場面以外でも積極的に授業に参加する生徒が増えた。また、学習カードに事前に練習計画を記入して授業に臨むグループが出てきたり、メンバーに分かりやすくするために図や文章を記入するグループも現れるようになった。

【学習カード記載内容の例】

《学習カード(グループ)》			
月	日	曜日	限
《本日のペア&ペアへのアドバイス》 ダブルスの試合を見て、気が付いたことを書きましょ			
ペア	氏名	アドバイス	
ペアA		もっとシャトルを見と打たてたい。ペアにまかせすぎ!! 相手の練習をばっかスラッシュが素直らしい!! 本日はお疲れさまでした。ペアの練習をばっか	
ペアB		ちゃんとペアにまかせた所があった。ネットに当たるのが多い。スマッシュが相手でも怪。よく頑張っていた。	
ペアC		もっと声かけを。2人前ボールが苦手で怪。から振りが多い。当たりが良かった。ペアの練習をばっか。ペアの練習をばっか。	
チーム評価	a 意欲 (4) 3 2 1	c 知識 4 (3) 2 1	e 練習の工夫 (4) 3 2 1
b 態度 (4) 3 2 1	d 技能 (4) 3 2 1	f 話し合い (4) 3 2 1	

① 課題の確認		
	自分	仲間からの評価
1 積極的に授業に取り組んでいたか。	4 (3) 2 1	(4) 3 2 1
2 自分や相手の特徴に応じて作戦や戦術を選べたか。	4 (3) 2 1	(4) 3 2 1
3 ペアと協力して攻撃や守備ができたか。	4 3 2 1	(4) 3 2 1
4 試合方法や審判の方法について理解できたか。	(4) 3 2 1	(4) 3 2 1
5 ペアやグループで積極的に話し合いができたか。	4 3 (2) 1	(4) 3 2 1
6 ペアやグループでアドバイスや応援を積極的に行えたか。	4 3 (2) 1	(4) 3 2 1

② 課題の解決方法	
チームで話し合っ、試合に勝つ方法や練習方法を記入しよう	
前後に柵を動かす	

② 課題の解決方法	
チームで話し合っ、試合に勝つ方法や練習方法を記入しよう	
バックハンドをばっか	

課題1 対話や発言の少ない生徒への対応である。リーダーや活発な生徒は、対話や発言が多いが、それ以外の生徒は少ない傾向がある。また、欠席の多い生徒や技能が低い生徒同士でペアを組んだ場合にも同様の傾向が見られた。そのような生徒に対して、対話や発言が活発に行われるように教師の働きかけが必要であると感じた。具体的には、リーダーやペアを交代制にするなどの配慮をする必要がある。また、生徒同士で評価しやすいように、具体的に練習や試合で評価するポイントを提示することも必要であると考える。

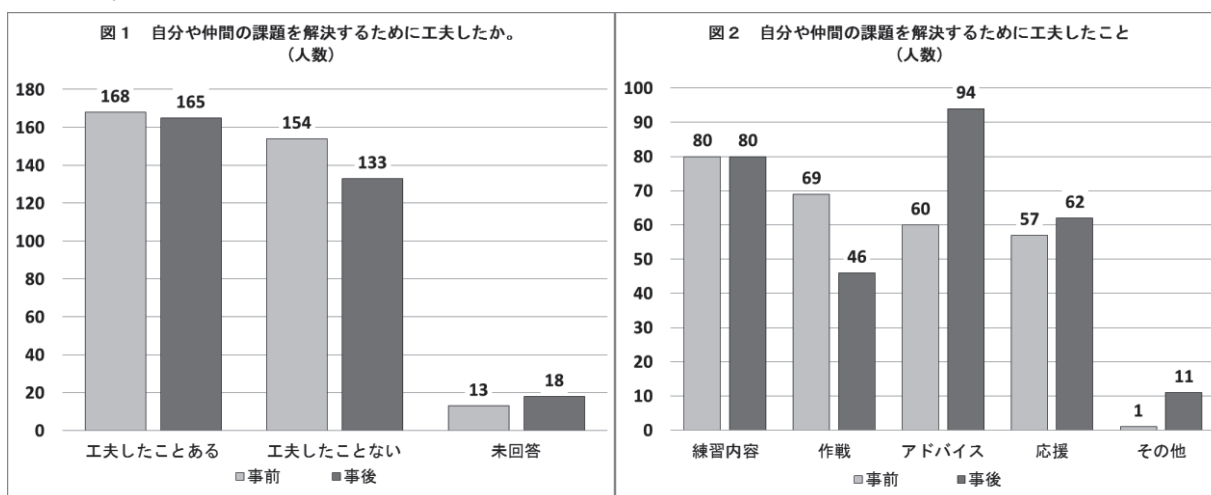
課題2 グループやペアの組み方である。グループ内に経験者やリーダー的な存在の生徒がいる場合には、運動も話し合いも活発に行われていた。しかし、そのような生徒がいなかったり、ペアで技能の差が大きかったりする場合は、アドバイスができなかったり、アドバ

イスをしても技能が向上しないということが見られた。そのため、グループ編成の際には、経験者等グループをまとめ、リーダーシップのとれる生徒が意図的に入るように配慮し、技能が低い生徒に対しては教師が個別に指導を行い、他のグループメンバーと技能の差がなくなるよう指導する必要もある。

### 3 授業アンケート結果の比較・分析・考察

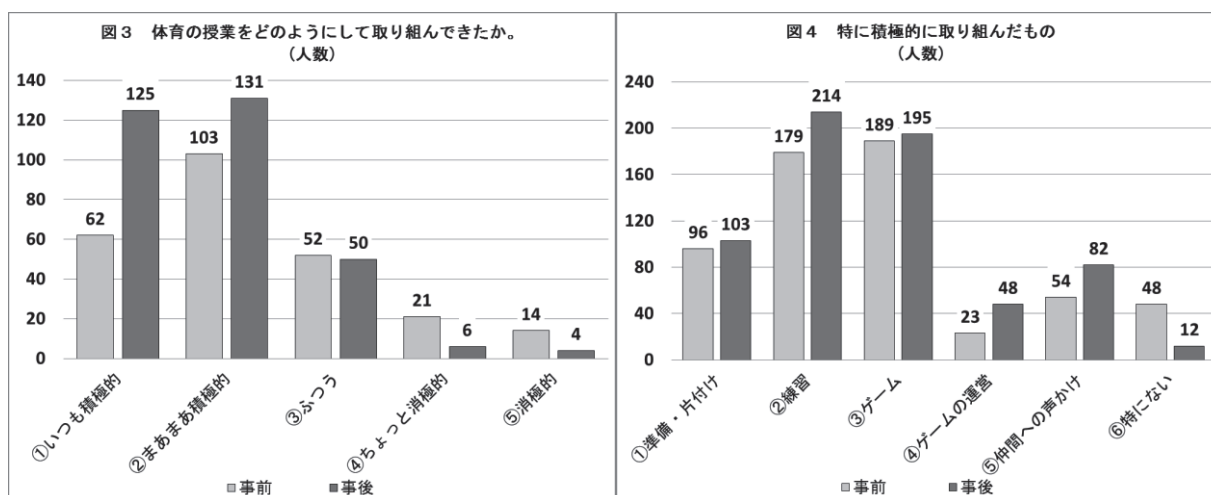
本研究では、領域「球技」のバドミントンを4校(254名)、テニスを3校(83名)計7校(337名)で検証授業を行った。事前アンケート(以下「事前」という。)を単元の一時間目に実施し、事後アンケート(以下「事後」という。)を単元終了時に実施した。

#### (1) 思考力

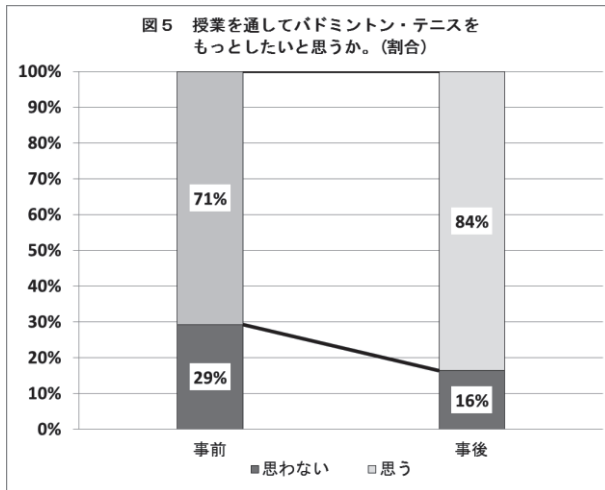


「今回の体育授業で、自分や仲間の課題を解決するために工夫したか。」(図1)について、事後では「工夫したことがある」の人数に大きな変化は見られなかったが、「自分や仲間の課題を解決するために工夫したこと」(図2)においては、「アドバイス」が事前60人から事後94人と著しく増加した。また自由意見では、「アドバイスするとうまくなってくれるのがすごく嬉しいと思うようになった。」といった記載も見られた。これは、習得している技能に差があり、技能向上に向けた思考場面・教え合いが増加したと考えられる。

#### (2) 主体性・学習意欲



「体育の授業をどのようにして取り組んできたか。」(図3)について、「いつも積極的」「ま



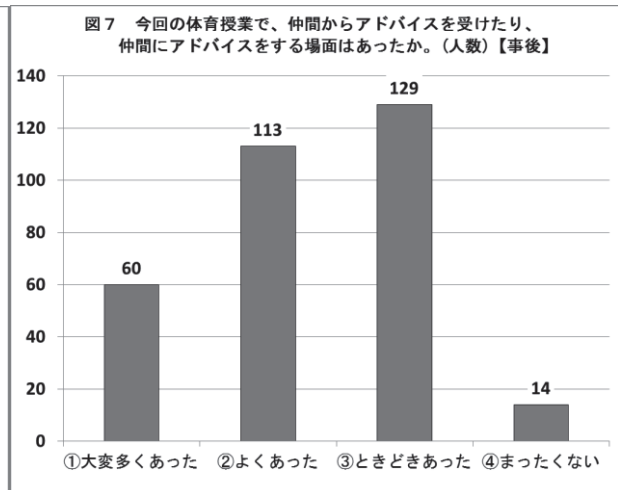
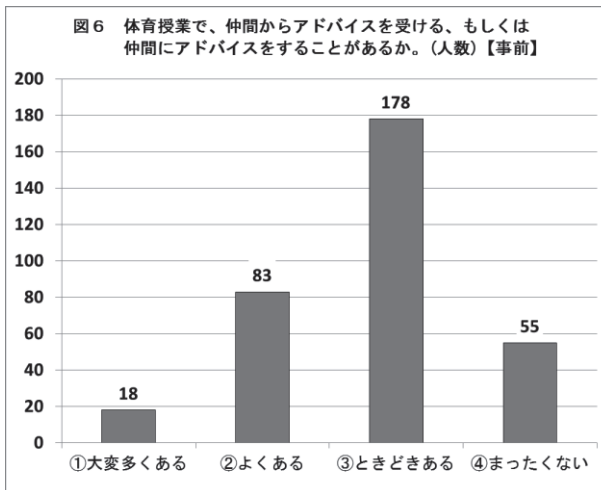
あまあ積極的」が事前から事後で著しく増加した。また、「特に積極的に取り組んだもの」(図4)については、全ての項目において増加したといえる。特に、練習については主体性が高まった。

以上のことから、「対話的な学び」を通じて主体性・学習意欲の向上が図られたと推察される。

また、「授業を通してバドミントン・テニスをもっとしたいと思うか。」(図5)につ

いて、「思う」が264人、「思わない」が52人であった。このことから、「対話的な学び」の中で、生徒同士が課題解決のための対話を繰り返すことで学習意欲が高まったといえる。

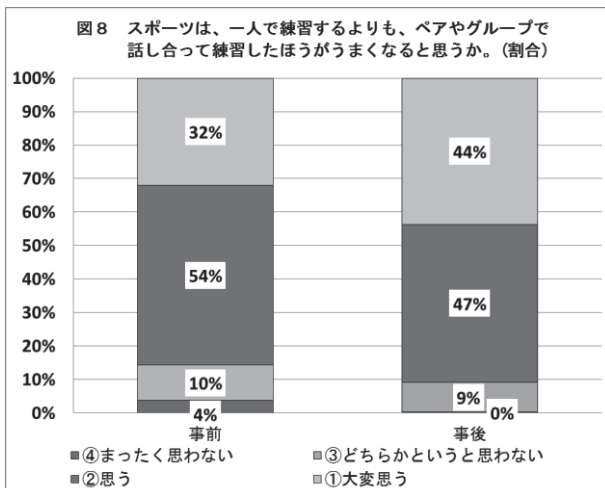
### (3) コミュニケーション能力



「仲間からアドバイスを受ける、仲間にアドバイスをすることがあるか。」(図6・図7)では、「大変多くある」「よくある」が事前で101人に対し、事後では173人と大きく変化した。

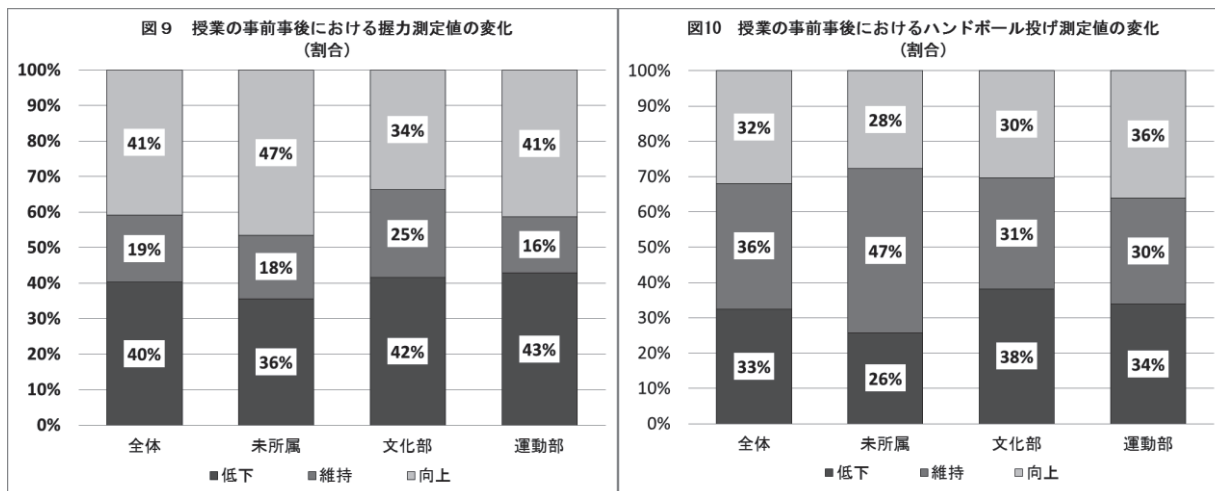
この結果から、「対話的な学び」を通じて互いに教え合う、学び合う場面が増加したといえる。

### (4) 達成感



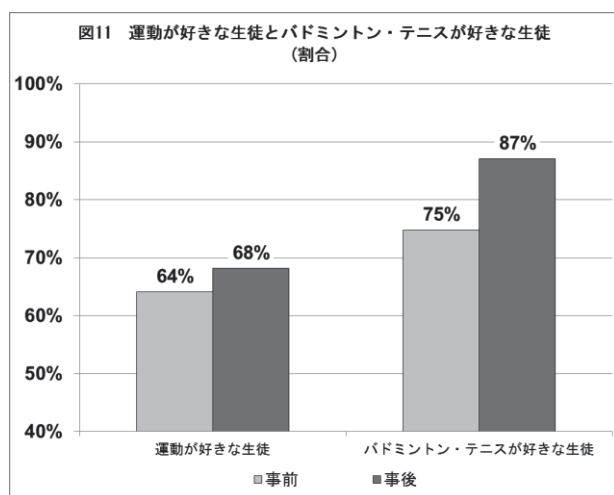
「スポーツは一人で練習するよりも、ペアやグループで話し合っ練習したほうがうまくなると思うか。」(図8)では、「大変思う」「思う」が事前で86%であったが、事後で91%になり、事後では「まったく思わない」が0%となった。この結果から、主体的・協働的な学習が達成感につながり、生徒の学習意欲も向上すると推察される。

(5) 体力

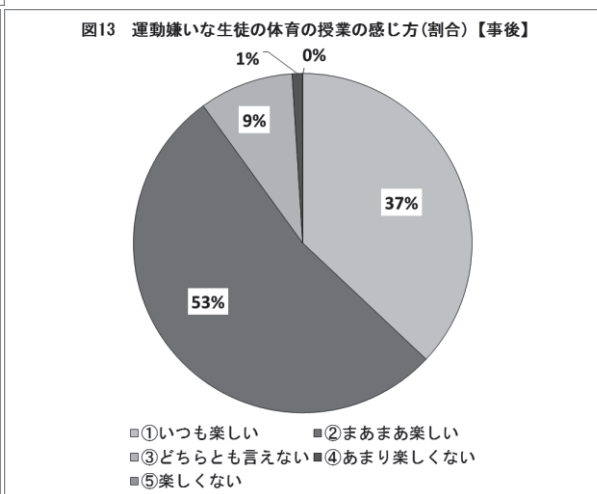
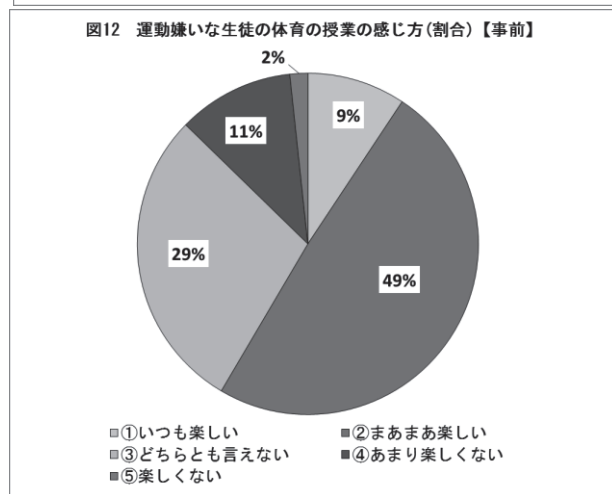


体力テストの数値が向上した割合(図9・図10)を全体で見ると、握力41%、ハンドボール投げ32%であった。また、数値が下がった生徒の割合は握力40%、ハンドボール投げ33%、数値維持の割合が握力19%、ハンドボール投げ36%となっており、今回の計測では大幅な向上はみられなかった。

(6) 運動習慣・生活習慣



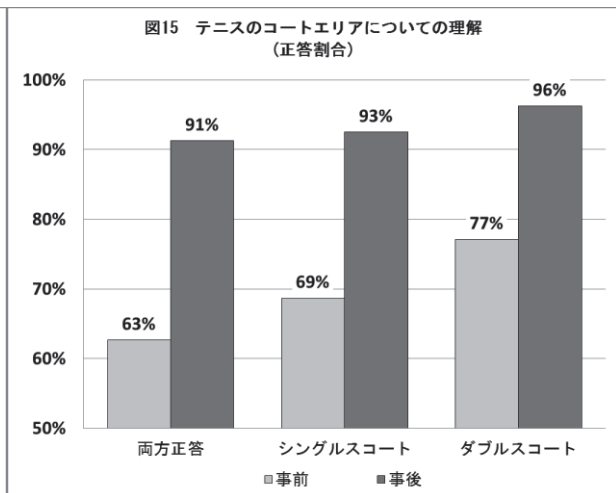
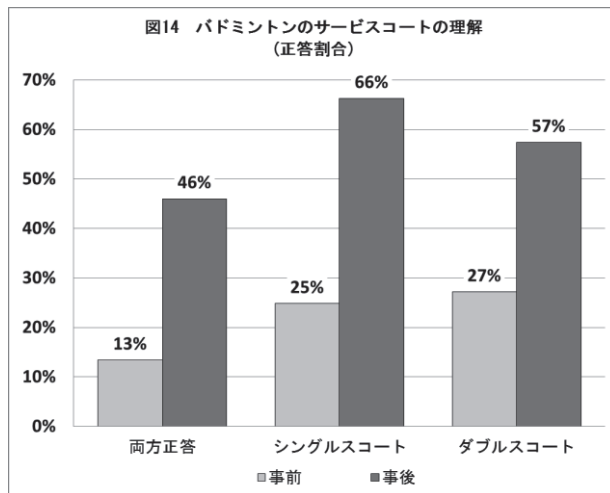
運動が好きな生徒の割合とバドミントン・テニス好きな生徒の割合(図11)がともに上昇している。運動に対する意識の調査では、事後に「好き」と肯定的に答える生徒の割合が増えた。豊かなスポーツライフの実現を目指す上で、長期的に運動を継続するためには、運動への意欲が欠かせない。肯定的な意識の向上は、豊かなスポーツライフの実現を支える重要な基盤である。



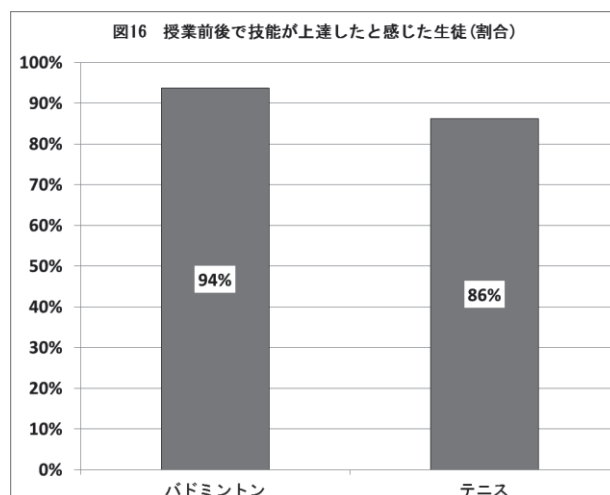
また、「運動が嫌い」と答えた生徒の体育の授業の感じ方(図12・図13)では、事前では「い

つも楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた割合が 58%であったが、事後では 90%と大きな数値の向上が見られた。

(7) 知識・技能



ルールの理解（サービスコート、サービスエリア）に関する調査（図 14・15）では、事前アンケートで 2 問とも正答した生徒の割合が、バドミントン 13%、テニス 63%であった。事後アンケートでは、バドミントン 46% (33 ポイント上昇)、テニス 91% (28 ポイント上昇)であった。



また、シングルスコート、ダブルスコートそれぞれの正答率もバドミントンでは 30 ポイント以上の上昇が見られ、テニスでは正答率が 90%を超えた。シャトルの軌道については 37 ポイント、テニスルールについては 2.3 ポイントと差はあるものの、どちらの正答率も上昇し知識の定着が見られた。また、授業前後で技能が上達したと感じた生徒（図 16）は、バドミントンで 94%、テニスでは 86%であった。

以上の結果から、「対話的な学び」を行うことで課題解決の工夫や仲間と協力することに対する苦手意識が減り、学習の効果も上がることが分かった。また、ペアやグループで対話する機会を意図的に設けたり、学習カードを活用することで、授業以外でも生徒同士の関わりや会話が増え、「仲が深まった。」「友達が増えた。」などの感想が多く挙げられており、授業や運動に対して前向きな意識の変化が起これ、運動に向かう資質・能力を育成できたと考える。

## VI 研究の成果

### 1 「対話的な学び」を発展させる授業の工夫

本研究では、「対話的な学び」を通じて、生徒が運動に向かう資質・能力を高めるための学習形態や学習環境の工夫を中心に授業実践を行った。

#### (1) 学習形態

単元が進むにつれて、段階的に生徒の「対話的な学び」の場面を多くし、教師の指導場面を意図的に減少させる単元設定を行った。単元の初期には、教師による一斉指導を中心に個別学習やペア学習を行った。単元の後半に向けては、グループごとに役割分担などを行い、生徒主導で学習活動を展開するグループ学習へと移行した。生徒が対話する人数や話し合う内容を徐々に増やし、新たな知識や技能の獲得と、それらを活用して話し合いが深まるよう工夫した。その結果、周囲との関わりが得意ではない生徒や、運動を得意としない生徒も、仲間と対話する姿や、自分から仲間や教師にアドバイスを求める姿が多く見られるようになった。意識調査の結果において、特に運動を得意としない生徒が、体育の授業に対して肯定的な意見をもつ割合が大きく向上しており、「対話的な学び」を通して体育の授業に対する関心・意欲が向上したと考えられる。

また、ペア学習で学んだことや互いに話し合った内容をグループ学習で活用している姿などが見られた。意識調査の結果においても、仲間からアドバイスを受ける・仲間にアドバイスする生徒が大きく増加した。このことから、互いに教え合う・学び合う場面が増え、「思考・判断したことを、根拠を示したり他者に配慮したりして、他者に言葉で伝えたり仲間と合意した内容を動作等で表現したりする資質や能力」の育成に効果があったと考える。さらに、各グループにおいて、一人一人が周囲と協力しながら役割を果たす姿が多く見られた。特に、グループのリーダー役の生徒が、授業前に各グループの課題や練習内容等を考えて授業に臨むなど、学習活動が活発に行われるよう工夫をする姿が見られた。単元を通して、体力や技能の程度を超えて、運動の取り組み方を考え工夫できる資質や能力をもった生徒の育成にも効果があったと考えられる。

#### (2) 学習カード

授業のねらいや獲得を目指す技能、本時の目標、運動のポイント、ルール等を示した学習カードを活用し、生徒同士の「対話的な学び」の活性化を図った。学習カードの作成にあたっては、練習や体力向上に向けたトレーニングなどの内容や工夫したこと、自分や仲間の技能や学習の到達度・達成度の評価、把握できた課題、話し合いの内容、仲間からのアドバイス、学習の振り返り、次時の目標などを記入できるようにした。

また、生徒が学習カードに記載したコメントを次時の導入において全体に提示し、フィードバックを行った上でその日の課題に取り組みさせた。前時の活動内容や、グループ・全体の課題、他グループの練習や工夫を共有することで、生徒は授業時間内外で話し合う内容が明確になった。その結果、自己や仲間、グループの課題や課題解決の方法について、獲得した知識・技能、体験を踏まえて積極的に対話できるようになった。

意識調査の結果においても、一人で練習するよりも、ペアやグループで話し合って練習した方が上手くなると思うと回答した生徒が増加したことや、ほとんどの生徒が授業後に技能

が向上したと感じていることから、運動の合理的・計画的な実践力や、知識や技術を実践的に理解し、仲間と合意した内容を運動の技能として発揮する能力の育成に効果があったと考える。

### (3) 教師の働き掛けと学習環境

グループ編成の際に生徒一人一人の技能を意識しながら、各グループの技能が均等になるよう配慮したり、特別な手だてが必要な生徒に対して積極的な声掛けやアドバイスをするなど働き掛けを行った。また、授業の中で、教員が生徒に対して一斉指導する時間を段階的に減らしていき、生徒同士の教え合いを通して、より主体的に学習できるようにした。さらに各種目において、導入時に取り組んだ簡易ゲームの内容、練習回数や得点、ゲームのルール、使用する用具の選択、グループ編成の人数などをそれぞれの学校や生徒の実態、授業環境に応じて工夫・改善・変更した単元計画により、生徒各自が学習における課題を把握し、課題解決に向けて意欲的に取り組むようになった。

## 2 「対話的な学び」に関する評価規準の作成

本研究では、従来の評価規準として示されている四つの観点（関心・意欲・態度、思考・判断、運動の技能、知識・理解）に加えて、新たに「対話的な学び」に関する評価規準を設定することで、ペアやグループでの話し合い場面における評価を明確にできるよう実践を進めた。また、生徒の学習状況を踏まえながら、評価規準、指導と評価の計画、毎授業における達成目標を設定し、単元始めのオリエンテーションで生徒に説明した。その上で、毎授業で評価や目標を視覚的に提示したり、学習カードに記載させる工夫を行った。その結果、生徒は単元を通じた学習の見通しと目標、本時の学習内容の位置付けをより深く理解・把握することができ、課題解決に向けて意欲的に取り組むようになった。教師としても、指導内容及び評価方法・評価場面を明確にしたことで、指導と評価を一体化させた学習指導が展開できるようになり、より効果的・効率的な指導と評価につながった。

学習カードについても、生徒が記述している内容から評価につながるような工夫を行った。個人カードでは、ペアを組む仲間からのコメント記入欄や、授業への取り組み・技能に関するチェック項目を設け、記入後に学習カードを交換して、互いの意見・評価などを見合えるように設定した。また、グループ学習では、1冊の学習カードで、グループの成果や課題の分析・考察などを行い、話し合いを通して、自分たちの活動に対する評価を行えるようにした。さらに、教師によるコメント記入欄を設け、1枚の学習カードで、自己・仲間による評価、教師による評価を生徒が確認できるようにし、運動に対する関心・意欲を高めるとともに、次時の目標や課題を自主的に考える機会の充実を図った。授業の感想では、「話したことがなかった人とも学習カードを通して話すことができた。」、「初心者の人などに分かりやすく楽しめるように教えることは、大事なことだと思った。」、「どうすれば上達するのかを考えて練習するようになった。」、「最初に比べて技能が上達したのが実感できた。」などの記述があり、生徒が自分やペア、グループの課題に対して思考を深め、課題を改善していく過程を工夫したり、グループで成果を挙げる楽しさ、達成感を味わうことができる学習となった。これらのことから、「対話的な学び」を通じた意欲的な学習の積み重ねにより、コミュニケーション能力や思考力・達成感の向上につながったと考えられる。



## VII 今後の課題

### 1 「対話的な学び」を発展させる更なる授業改善

本研究では、球技・ネット型のバドミントンとテニスを取り上げ、「対話的な学び」を活性化するための段階的指導を行った。球技・ネット型は、攻防を展開するスペースが限られており、ペアやグループでの連携・協力・コミュニケーションを比較的取りやすい。そのため、積極的に話し合い活動をする場面や、互いにアドバイスを行う場面などが多く見られた。今後、体育の授業において「対話的な学び」をさらに発展させるには、他の領域についても「対話的な学び」が進展しやすいような段階的指導や、より分かりやすい教師の働き掛け・教材の工夫を継続的に行っていく必要がある。

また、検証授業において、生徒の中には知識や技能が備わるにつれて、周囲に対して発言やアドバイスを行う機会が徐々に増えていく様子が見られた。このことから、基礎的な知識や技能がある程度備わった上で「対話的な学び」を進めていくことで、ペアやグループでの話し合いによる活動がより活発化していくと考えられる。今後は、基礎・基本的な知識・技能の更なる獲得と定着を図るために、単元前半の教師主導での学習場面において、ICT機器を活用した知識・技能情報の提供や、動作の振り返りを一層促進していく必要がある。

さらに、より効果的な言語活動の充実を図るためには、運動が得意ではない生徒の活動を一層活発化し、単元の目標を達成させることも重要となる。アドバイスを一方的に受けるだけでなく、学んだり獲得した知識・技能を活用して、運動が得意な仲間に対してアドバイスをする場面を増やしたい。そのために、身に付けさせたい技能の目標や授業のポイントを学習カードに例示するなどの工夫をして、生徒が技能で不足している部分を考えながら練習できるようにする必要がある。

### 2 「対話的な学び」に関する評価の改善

従来の四観点の評価規準に加えて、「対話的な学び」の評価規準を作成したが、評価を行う場面や評価の内容が曖昧になってしまうことが課題として挙げられた。今後、評価を適切に行っていくためには、授業ごとに評価観察表を作成し、生徒一人一人の観点別学習状況を簡潔に記録できるようにすることが求められる。

また、学習カードへの記入内容や学習活動を観察した評価に加えて、生徒自身がペアやグループで相互評価を行う場面を設定し、生徒同士による相互評価と教員による評価を併せて行えるよう工夫を行ってきた。しかし、学習活動の観察では、発言が少ない生徒・活動や話し合いが滞っているグループへの評価が難しい点、学習カードを中心とした見取りでは、生徒の表現力や言語に関する基礎的な知識に左右される点など、必ずしも生徒の評価を十分に行うことができていないのではないかとということが課題として挙げられた。そのため、話し合い活動や学習カードへの記入に対する教師の働き掛けが、より一層重要になると考える。

### 3 教師の働き掛けの改善

教師は、生徒に身に付けさせたい技能や、その技能を習得するためのポイントを的確に把握し、獲得したものを実際にゲームで生かす授業内容や単元計画、評価方法の工夫と改善をする必要がある。

また、「対話的な学び」をより活発化させていくためには、生徒の人間関係に対する配慮や、

集団行動に困難を示す生徒への働き掛けなど、個々の実態や学校の実態に応じた対応を行いながら学習を進めていく必要がある。具体的には、ICT機器を用いた視覚的に理解しやすい教材作りや、技能の獲得を保證できるような単元計画の工夫、技能差のある生徒たちが互いに意欲的に活動できる学習環境づくり、授業ごとに達成目標を分かりやすく具体的に提示する方法の検討、学習集団を編成する際の配慮や工夫、周囲との関係構築が難しい生徒に対する教師による声掛けなどが挙げられる。

#### 4 実運動時間の確保

意識調査の結果からも「対話的な学び」を通して、言語活動の充実やコミュニケーション能力、思考力、体育の授業に対する意欲、知識・技能の向上を読み取ることができた。

しかし、話し合いの時間を多く設定したことや学習カードの記入時間を確保したことにより、単元全体において生徒の実運動時間を十分に確保することが困難であったことが課題として挙げられた。生徒が運動する時間を十分に確保することは、体力や技能の向上に必要である。この課題を解決するためには、事前に運動の基礎的な技能やルールに関する情報をホワイトボードや学習カードに記載しておき、教師による説明などの一斉指導の場面を減らすこと、学習カードの自由記述欄の配分や記入方法を工夫して記述にかかる時間を極力少なくすることなど、より効果的・効率的な学習方法を検討していく必要がある。

#### 5 体力の向上

本研究では、「対話的な学び」を通じた思考力・主体性・コミュニケーション能力・達成感・学習意欲の向上に加えて、体力の向上を目指した授業の実践を行った。「平成28年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」（東京都教育委員会 平成28年11月）の結果と、本研究の授業実践後に実施した測定結果（握力・ハンドボール投げ）を比較して、どのような変化があるのかを検証した結果、両種目共に大幅な数値の向上はみられなかった。

学校の実態によって、体力の現状に大きな差があることや、測定した際の気候など、前提となる条件が異なっていたことが要因として考えられる。また、測定を実施することを事前に伝えて、体力の向上を目指した取組を行った学校と、あえて生徒に伝えずに「対話的な学び」の中で体力の向上を目指した学校で、測定の結果に差が生じた。

体力の向上を図るためには、体育の授業や部活動を活性化させ、運動が得意な生徒の運動に対する意欲をさらに高めることが求められる。さらに、運動部活動に参加していない生徒や運動が得意ではない生徒が、体育の授業を通して運動への関心や意欲を高め、日々の生活から運動に携わる時間を増やすことが重要になる。体育の授業における、体力の向上を意識させること、各体力要素を向上させるための活動を取り入れることなどの工夫・継続が必要であると考えられる。

## 平成28年度 教育研究員名簿

### 高等学校・保健体育

学 校 名	職 名	氏 名
東京都立足立高等学校	教 諭	佐藤 貴文
東京都立向丘高等学校	教 諭	北住 歩
東京都立晴海総合高等学校	主任教諭	勝部 良和
東京都立文京高等学校	主任教諭	齋藤 和也
東京都立飛鳥高等学校	主任教諭	太田 道子
東京都立北豊島工業高等学校	教 諭	○坂本 憲亮
東京都立八王子拓真高等学校	主任教諭	◎鈴木 良

◎世話人 ○副世話人

〔担 当〕 東京都教育庁指導部指導企画課 指導主事 中村 美咲

平成28年度

教育研究員研究報告書  
高等学校・保健体育

東京都教育委員会印刷物登録

平成28年度第142号

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 株式会社オゾニックス